

Morb Mortal Wkly Rep 2019 ; 68(9):220-224

アメリカの退役軍人医療センターでの黄色ブドウ球菌の推移 (2005 ~ 2017 年)

Trends in *Staphylococcus aureus* Infections in Veterans Affairs Medical Centers - United States, 2005-2017

Jones M, Jernigan JA, Evans ME, Roselle GA, Hatfield KM, Samore M.

序論

2007 年までに、全ての退役軍人医療センター (VAMC) は多面的メチリシン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 防止対策を導入した。2005 年から 2017 年までの VAMC 入院患者の MRSA とメチリシン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) 感染率を評価した。

方法

2005 年から 2017 年までにアメリカの急性期 VAMC130 施設に入院した患者の臨床微生物学的データと、院内獲得 MRSA 保菌の推移を検証した。

結果

黄色ブドウ球菌感染症は研究期間中を通じて 43% 減少した ($p < 0.001$) が、それは主に MRSA の減少によるものであり、MRSA は 55% 減少した ($p < 0.001$)。一方、MSSA は 12% 減少した。院内発生 MRSA と MSSA 感染はそれぞれ 66%、19% 減少した ($p < 0.001$, $p = 0.02$)。市中発症 MRSA 感染は 41% 減少した ($p < 0.001$) が、MSSA 感染は有意な減少を示さなかった。MRSA 保菌獲得は 2008 ~ 2017 年で 78% 減少した (年 17%, $p < 0.001$)。MRSA 感染率は、入院時監視培養で MRSA 陽性であった患者に比べて陰性であった患者の方がより大きく減少した (年 9.7% の減少 vs 年 4.2% の減少)。
表 入院患者における黄色ブドウ球菌感染発生頻度の変化

	合計の変化	年ごとの平均の変化	傾向に関する p 値
全ての <i>S. aureus</i> 感染			
MRSA+MSSA	-42.5	-4.7	<0.001
MRSA	-54.6	-7.3	<0.001
MSSA	-12.2	-1.2	0.003
病院発症 <i>S. aureus</i> 感染			
MRSA+MSSA	-70.2	-10.1	<0.001
MRSA	-65.7	-8.9	<0.001
MSSA	-18.7	-1.7	0.017
市中発症 <i>S. aureus</i> 感染			
MRSA+MSSA	-27.5	-2.7	<0.001
MRSA	-40.6	-4.8	<0.001
MSSA	-0.4	-0.04	0.93

結論と公衆衛生施策への教訓

VAMC の介入後の黄色ブドウ球菌の有意な減少は、主に MRSA の減少によってもたらされた。さらに、MRSA 感染の減少は入院時に MRSA を保菌している人よりもしていない人の間でより大幅であった。これらを総合すると、VAMC において、MRSA 伝播の減少が黄色ブドウ球菌感染全体を減少させる大きな役割を演じたことを示唆している。MRSA 伝播を防止するために企図された感染対策介入を中止するという最近の呼び掛けは未熟かつ推奨できないものであり、少なくとも医療機関における細菌性病原体の伝播に関する効果的な制御についてもっと多くのことが分かるまではそう言える。効果的な黄色ブドウ球菌防止戦略は、デバイスや手術関連の感染を防止するのみならず、医療機関で一般的な菌の伝播を防止するための CDC の現在の勧告を遵守することも含めた多面的アプローチを必要としている。

監修者コメント

ケンエー海外論文 Pick up vol.18 と vol.24 で取り上げた 2 本の論文は、多剤耐性菌、特に MRSA に対して接触予防策を中止しても構わない、という論調のものであったが、今回紹介する論文はその反論である。2010 年代に入り本 Pick up vol.18 を含む多数の研究が接触予防策の有効性を否定する結果を得て、それらを用いたメタ解析の結果が前述の vol.24 の論文である。一方、今回紹介した論文は、退役軍人病院という似通った性質(患者のほとんどが男性)という制限はあるものの、100 箇所以上の病院のデータであり、メタ解析に匹敵する重みがある。接触予防策の有効性を検証する方法が異なっているものの、両者はほぼ正反対の結果になり、大変興味深い。

監修者

森兼 啓太 (山形大学医学部附属病院 検査部 部長・病院教授、感染制御部 部長)